

(令和6年3月6日 午前9時00分 開始)

○議員（徳弘 美津子君） おはようございます。通告書に基づき、一般質問いたします。

大変申し訳ありません。質問事項の自治公民館については、町長の見解を伺うことが多くあること、館長手当については当初予算に絡むことなので、質問事項1については、今回は見送ります。誠に申し訳ありません。

図書館指定管理について、いくつか質問いたします。

昨日、3名の同僚議員が致しましたが、ダブって伺うこともあるかと思いますが、ぜひお答えください。

2月5日の臨時議会で、この件については可決し、決定に向け引継ぎをされていると聞きます。臨時議会でも議長可決により決定し、議会が二分しました。臨時議会での賛成討論を見ると、「大変よかった」、「図書流通センター——以下、TRCと言わせていただきますが——では、宝の持ち腐れにしないためにも、変えようではありませんか」、「——さんの評判がいい。非常に人柄がいい」、「TRCの変なうわさで不透明な部分がある」、「地元を受皿ができつつあるなら、地元にもやらせてもいい」、「TRCでは温かいゆっくりした図書館をつくってもらえない」と、TRCではなく、実績も全くないフロンティアネットワークに任せたいというようなことを言われています。待ち望んでいた、切望していた結果のように見受けられました。

全国で550もの図書館を受けているTRCが職員の対応など否定され、おまけにちゃんと書類の提出もされているのに、副町長が瑕疵を認めているのに、こんな不正ではなく手違いだったで済まそうとしている。お粗末な顛末で失格というレッテルを貼られることは、怒りを越えて川南町に対して失望されることが町の損失です。今回のTRCを失格し、川南フロンティアネットワークに決定することへの議案は間違いだったと言えませんか。

傍聴された方々や議会報告会の御意見の中には、なぜ決定したことをいつまでも質問するのかと言われる方がいらっしゃいます。昨日の同僚議員の質問でお分かりのように、明らかに不正で成り立つ契約です。今回の一連の動きが今後3年間を仕切る東町長の町政運営のやり方では、川南は困るのです。

今回の副町長の一連の動きは、行政に携わる方々への信頼を揺らぐものです。新聞にも取り上げられ、真面目に業務をこなしている職員はもとより、元OB職員や川南居住の住民は、この顛末を知った町内外の方々に様々な声をかけられていると聞きます。こんなことが当たり前に行われ、何でも通る町政になりかねないから質問をするのです。

副町長は、私が35年ほど前に臨時職のときにお世話になった耕地課におられ、とても真面目に仕事をされ、上司を思い、いろいろ教わったことがあります。しかし、今回、副町長となられ、どうしたのと思うくらい様相が変わられたのが非常に残念に思っています。この数十年で何があったんだろうと思っています。行政マンとして誇りを持っていたのか、残念です。

これまでの一般質問でも、「PLATZ（ぷらっつ）」に対する町長の考えが、管理者として変えることもあるような発言がありました。この図書館のように、あり得ないことを失態として管

理者から外し、誰か知りませんが、管理者をまたつくりたいと考えているのではないかと疑ってしまいます。これらのこと、副町長、町長も一緒に決定していたことは、町民に対してどのようなお気持ちかお聞かせください。

以下は質問席で致します。

では、質問です。

臨時議会で決定したサンA文化ホール・図書館の指定管理の決定について、現在の進捗状況を伺います。

昨日、同僚議員がいろいろ質問しましたが、ダブることがありましても、ぜひお答えください。

まず、職員の確保ですが、館長以外のチーフなど5名の確保、また、図書館員、文化ホール図書館補助職員5名の司書資格者の確保はできているのか。4月まで一月を切りましたが、円滑にできそうか確認していますか。お答えください。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、現在の進捗状況ですけど、議会の議決を受け、教育委員会が指定管理者の指定について告示を行っております。現在、基本協定の締結の準備を行っているところであります。また、現指定管理者と新指定管理者の間で引継ぎの作業は進められていると認識しております。

それから、新しく指定管理者になられるところが人員の確保等を提案書、提出された書類どおり進められているかどうかですけど、私どもでは、昨日も御答弁させていただいたように、人員の確保の状況についてはまだ把握をしておりません。ただし、提出された書類どおりに実行されなければならないものと認識しておりますので、今後、確認をしていきたいというふうに思っております。

（ 最終日の冒頭、教育課長より質問に対する報告あり ）

以上でございます。

○議員（徳弘 美津子君） 職員の確保については、昨日も同僚議員が申したと思うんですけど、ちょっと確認していただくとよかったのかなと思いますけど、できませんでしたか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

昨日御質問を受けたところなんですけど、まだ確認のほうは行っておりません。現在、基本協定を中身を詰めるということでやり取りをしているところなんですけど、相手方からもまだ連絡もないところなので、そういうこともありまして、まだ確認のほうは実際取っておりません。

（ 最終日の冒頭、教育課長より質問に対する報告あり ）

以上でございます。

○議員（徳弘 美津子君） TRCの職員の方たちを再度雇用するという動きもあったと聞いております。実際、どれぐらいの方がその話に応じたのか、全くなかったのか、もう一度お聞かせ願えますか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

1回目の引継ぎに立ち会ったことがありまして、2月20日の日に説明会、その後、面接を行うというお話は伺っているところなんですけど、実際に何名の方が面接を受けられているかということは把握はしておりません。先日、小嶋議員のほうから言われたので、そういう状況なんだという認識を持ったところであります。

以上でございます。

○議員（徳弘 美津子君） 十数名の方たちの多分雇用が図られていると思うんですけども、皆様の今後の行き先、4月からの行き先はどのように把握していますか。例えば、TRCはいろいろ支店もほかもありますのでそちらなのか、それとも、期限付きの職員に関しては再雇用がないのかとか、そういう細かいことはお聞きですか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

細かい部分までは、全て把握しているかと言われると、把握はしておりません。ただ、人事異動とかはあるというのは、以前、そういうふうになるということはお聞きしております。また、地元で今後退職されるからということで次の仕事を探していらっしゃる方の情報というのは、1件お聞きしております。

以上でございます。

○議員（徳弘 美津子君） もともと5年契約でありますので、5年で終わるかもしれないという前提の中で採用もあると思うんですけども、なかなか今回のような形で失格になったというのはすごくTRCでも受け入れ難いと思うんですけども、TRCの方たちの職員に対するお気持ちというものを副町長はどのようにお考えでしょうか。

○副町長（河野 秀二君） それは、会社の中で対応していただけるのだと思います。

○議員（徳弘 美津子君） それでは、次です。今回、川南フロンティアネットワーク決定までの顛末を伺うで、まず、先ほどちょっとまた変わりますので後で聞きます。

総合教育会議の件です。1月22日に総合教育会議で、副町長の発言では、図書流通センター、TRCですね、TRCがプロポーザルで決定したが、川南フロンティアネットワークに決定したいと言われ、理由を言われました。理由は、一つ、地元の人材を育成する。2、館長候補として、県内在住で、以前、本施設の館長を4年間務められた方を考えている。3、点差が4点差で僅差であったと言われましたが、事実ですか。副町長、お願いします。

○副町長（河野 秀二君） 私が会社の社員とか職員を採用する権限はありませんので、私が聞いているのは、そういう方がいらっしゃるというお話をしたと思います。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） そういうことを聞いたからということで、その解釈でいいということとでよろしいですね。よろしいということです。

では、地元の人材を育成とありますが、フロンティアネットワークの積算基礎の中を見ると、細かく人員配置について述べられております。本当に細かく一人一人の給与まで分かるような感じで本当に書いてありますが、その中に、ざっと見ると、館長、副館長、文化ホールチーフ、図書館チーフ、文化ホール職員、図書館サブチーフ、図書司書、図書職員が4人、あとは補助職員、文化ホールですね、文化ホール職員、文化ホール専門職員ということで、12名の方たちの雇用が図られるとありますが、実際、それは確実に育成、つまり、採用となる根拠は何ですか。地元人材を育成と言われましたが、地元というまず縛りが何なのか。総合教育会議で地元の育成と言われたその12名の方たち、12名かはちょっとあれですけども、その方たちの育成となる根拠を教えてくださいませんか、副町長。

○副町長（河野 秀二君） 会社のほうがどういった人材とか人数を探すとか、私が決めること

ではありませんので、そこに書いてあるとおりの人数をできるだけ地元で採用したいという意思の表れじゃないかと私は思いますけど。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） そういうことを聞いたと、表れだということで、フロンティアから副町長がそうやって聞いたということによろしいんですか、解釈としては。

○副町長（河野 秀二君） 基本的な話として私は聞きました。その方だけじゃなくて、町内の方々から地元にも、もしできるなら地元で雇用をしてほしいよねと、そういう一般的な話のことです。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） 町内の方々から、もしそうなら地元で欲しいよねという話を聞いたと。それをフロンティアネットワークのほうに言ったということによろしいんですか。思っ自分止めていただけでは地元の人材を育成とはなりませんので、それを聞いた、町民から。それをフロンティアのほうに、そういうこともあるんですかねという形では言われているということの裏づけになったと思うんですけれども、どうでしょうか。

○副町長（河野 秀二君） まずは対面する場がありませんでしたので、そういうことは言っていないと思います。言っていません。私が先ほど言ったのは、一般的に、町民の方々から、もしそういう体制になるのであれば地元を活用してほしいよねと。一般的な話のことです。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） 一般的なことを失格理由で総合教育会議でおっしゃられたということによろしいんでしょうか。

○副町長（河野 秀二君） 意図が分かりません。

○議員（徳弘 美津子君） もう一回だけ言います。総合教育会議という、結局、図書館を指定管理する元を指定する教育委員のほうの会議で、副町長が、プロポーザルで決まったけどもという理由の中で、3項目挙げている責任です。重さです。これで失格理由ですよと言われて、教育委員の皆さんは「そうなんだ」と結局思われたわけですよ。3項目の件の決定事実です。そこを言っているんです。

○副町長（河野 秀二君） 書類不備のことですか、言われているのは。失格と言われたのは、書類不備のことを捉えて言われているんですか。確認のため、もう一度お願いします。

○議員（徳弘 美津子君） 書類の失格ではなくて、総合教育会議で言った失格の理由です。失格の理由は、この3項目でしょう。書類不備なんてどこにも書いていないんですが。だから、3項目、この3項目で教育委員の皆さんは「そうなんだ」と納得されたわけですよ。書類不備なんてこのときには何も言っていないですわ。その中の一つに、これだけのことを言っているから、どうなんですかと聞いているんです。書類不備は後ですわ。後づけです。後づけというか、そこはまた昨日いろいろ議論されましたけれども、総合教育会議のことを言っているんです。総合教育会議の中の3つの項目のことで、地元の人材育成という、いろいろまたあとにありますけれども、それを言っているから、それが理由なんですよ。だから、その裏づけとして何かあったんですかと聞いているんです。

○議長（河野 浩一君） 副町長、反問権を使うなら、反問権の行使をしてください。

○副町長（河野 秀二君） 失格の要件で、地元で採用しないとイケないというようなことを私は言ったつもりはないと思います。地元採用をするというのは、近郊で採用してもらえればいいと、そういう話をしたかもしれませんが、それは私が決めることではありませんので、将来、多分町長も言われたと思うんですけど、将来的に町内でそういった指定管理者ができればいいというのをおっしゃったのを少し記憶しておりますけど、川南の人じゃないと条件に当てはまらないとか、そういったことを私が言った記憶はありません。

以上で終わります。——ごめんなさい。ないと思います。

○議員（徳弘 美津子君） プロポーザルで決定したのがTRCでしたが、川南フロンティアに決定したと言われたんです。理由がさっきの項目です。だから、プロポーザルではTRCでした。でも、川南フロンティアになりましたと。その理由が3つですと。何となく会社名が川南フロンティアネットワークという、もう川南に根づいてくれるという感じのあるネーミングをされていることで、もしかして川南に根づいてくださるのかなという感じで思われたのかなと思っています。結局、向こうの方との接触がなくて、何も聞いていなくて、3項目、地元の人材を育成する、館長候補として県内在住でということを書いているわけですね。例えば、プロポーザルの資料の中に、その取組として、川南在住の人を採用しますよとかあったのなら別ですけども、それはあったんですか。

○副町長（河野 秀二君） 先ほども言いましたけど、私の権限でその会社が運営する人材のことを決定することはできませんので、先ほども言いましたけど、町長もたしか言われたと思うんですけど、将来的にもし川南でそういった組織なり人材がいるのであれば、そういう方向に持っていきたいというようなことは言われたのをうっすらちょっと覚えておりますけど。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） 意味が分からない。結局、それだけ言っているわけですね、人材をしますと。確かにそれらしく聞こえますよ。だから言っているんです。御自分がプロポーザルで決まったところを落として、フロンティアにしたいという理由の中にあるわけです。意味が分かりません。

次に行きます。その中のまずは2項目です。次、3つの理由。館長候補として、県内在住で、以前、本施設の館長を4年間務められた方を考えているとは、お名前を教えてください。

○副町長（河野 秀二君） 過去に川南の図書館で館長をされている方がいるというのは、話に聞いておりました。ただ、その方々が川南フロンティアというチームをつくって出てくるとか、そういうのはその時点でというか、当初は分かりませんので、何とも私が言い難い点だと思うんですけど、あたかも私が何かその方を採用するようなふうに聞こえてならないんですけど、どうしてそんなに結びつけられるのかが私には分かりません。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） いや、御自分で言っているんですよ。館長候補として、県内在住で、以前、本施設の館長を4年間務められた方を考えていると言っているわけですよ。誰か分かりませんか。意味がちょっと、総合教育会議での発言ってすごく重いですよ。議事録にも残って、ホームページにも出ています。だから、一つずつ確認しているんです。いいんですよ。——さんですよ。この前、賛成討論で同僚議員が言いましたわ。——さんはすばらしいと。私も今日ち

よっと朝、フェイスブックをググったら、ちょうど6年前ですかね、新しく受けるフロンティアネットワークの——さんを館長とした当時のTRCの活動に、私もある団体で参加したときに、私も本当に——さんは非常に人間的に買っております。企画力もすばらしかったと。本当にこの3月で辞めますよということを言われたことも書いてありました。本当にすばらしい人材だと私も感じております。それと今回の議案は全く別のものであって、いいんですよ、逆に言えば、もう公募の中に何かそれらしい、そうやって入れておけばよかったんですよ。こんな副町長が何かもう大変な思いをして、いろんなことを新聞に書かれてするようなことをせずに、堂々と——さんという川南フロンティアネットワークにさせたいのなら、ちゃんと手順を踏んでやっていけば私はよかったのかなと思うんです。私はいいいですよ、別にフロンティアネットワーク、——さんを買っていますので。だけど、決め方として、議会ではこういうことは認められませんよと言っているだけです。だから、言いますよ、その方が館長をすることがフロンティアネットワークに決定する要件とはどういう意味なんですか、だから。どういう意味でそれを言われたんですか。

○副町長（河野 秀二君） 先ほども言いましたけど、私がそういう決定する権限はありません。会社が決めることです。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） ということは、御自分は決定されなかったけれども、この3つの理由の中で、3つの理由、だから、それはフロンティアのほうから、誰からそれを言われたんですか。自分は知りません、会社のことは知りませんと。でも、3つの理由がありますということは、誰がこういうことを考えて、3つですわ。地元の人材を育成。館長候補として、県内在住で、以前、本施設の館長をされた方を考えている。点差が4点の僅差だったと。その3つの項目です。それを言われているんですよ。まさかそこをお忘れで、一番重大です。一番最初に、積算根拠がないという話以前に、総合教育会議で言われているんです。3項目について、もうTRCが落としたけれども、プロポーザルではなかったけれども、川南フロンティアにしますよって言う理由を言われているんですよ。だから、それはちゃんと自分の考えの中であつたと思いますけれども、いかがですか。

○副町長（河野 秀二君） あまりにも何かこじつけたような言い方をされますけど、なぜそういうふうに捉えるのか、私は分かりません。

○議員（徳弘 美津子君） この3つの項目を言ったのは事実ですか。

○副町長（河野 秀二君） 議事録に書いてあればそうだと思います。ただ、発言の内容は、人間、その時々で変わるじゃないですか。一般的な話をしたのは、私は覚えています。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） だから、一般的などうかというものではないじゃないですか。特にこの館長候補として県内在住というのは、一般的じゃないですわ。ちゃんとそれを知り得たことで理由の一つに挙げているんじゃないんですか。

○副町長（河野 秀二君） 何回も申し上げますけど、私にそういう権限はありません。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） 権限がなくて、なぜ総合教育会議で参加されて、町長が紹介をされて、今日は副町長がフロンティア、図書館の指定のことについて話がありますから、後で話をし

ますと言っているんです。で副町長が言っているんです。なぜですか、それは。

○副町長（河野 秀二君） 会に出席するのと権限の問題は別だと思います。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） 権限ではなくて、じゃあ、なぜ言ったんですかということです。権限じゃなくていいですよ、別に。なぜ言ったんですかと。

○副町長（河野 秀二君） 町長から会に出席するように言われましたので、会に出席いたしました。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） では、町長から、この3つの項目について、これの結局、川南フロンティアに決めたいということを町長から参加して言いなさいと言われたということでしょうか。

○副町長（河野 秀二君） 先ほどから何回も同じことを言いますけれども、あまりにも無理に何もかにもくっつけ過ぎて結びつけてしまうようなことを言われておりますけど、なぜそうなるのか、私は意図が分かりませんから、御質問の答えようがありません。

○議員（徳弘 美津子君） 時間がもったいない。

では、3番目、点差が4点差の僅差であったとはどういうことですか。失格の要件になり得るんですか。この点差が開いていないという、大きな点差が開いていないことですか。そこをお聞きします。さっきと同じことになるかもしれませんが、言っているんです。4点差しかありませんと。

○副町長（河野 秀二君） 失格要件としては書類の不備、そこで言っているかどうか分かりませんが、会の中の全ては記憶しておりませんが、もし私がそれに、その議事録に書いてあれば言ったのかもしれませんが、はっきりとは覚えておりません。

○議員（徳弘 美津子君） すいません。失格ではなくって、川南フロンティアネットワークに決めたいんだと、その3つのことなんだと言っているわけです。失格とかいうことではない。書類不備というのは後のほうです。この総合教育会議で言った3つの項目で、3つの項目で、だから、TRCが失格ではなくって、川南フロンティアにしたいと言われているということの確認です。

○副町長（河野 秀二君） なぜそういうふうに結びつけられるのか、私は分かりません。お答えできません。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） では、教育長にお伺いします。教育長は総合教育会議に参加されておりました。おりましたね。そのときに、その副町長の提案を聞いてどのように感じられましたか。

○教育長（長曾我部 敬一君） そのとき、議会の多数決で川南のほうへ、フロンティアのほうへ決定しましたよね。決定したので、そうかなということを感じました。

○議員（徳弘 美津子君） 総合教育会議は1月の22日に開催されたんですよ。私たちが決定したのは2月5日の臨時議会ですよ。まだ議会にも諮られていないんです。プロポーザルが1月の17日になり、そこでTRCが4点差でTRCにそのときは決まりましたと。5日後に総合教育会

議で、先ほどの3つの項目で川南フロンティアにしたいんですよ。だから、TRCが失格ではなくて、3つのことで川南フロンティアにしたいと言われたときに、教育長はどのようにお考えだったのですかということ。プロポーザルのときにも参加をされております。点数もつけております。そのときはTRCだったということです。結局、5日後に副町長のほうが、教育長ではなくって、本来なら教育長がこういうさっきの項目、3項目を言ってくれるならまだ分かるんですよ。副町長からそれを言われているわけです。どのようにお考えになりましたかということです。

○教育長（長曾我部 敬一君） そのときに私自身感じたことというのは、そのように決定したんだなということしか思いませんでした。

○議員（徳弘 美津子君） 図書館指定は教育委員会が所管するものなんです。昨日ちょっと言われたときに、プロポーザルの審査を受けるときに、事前に書類の読み込みとかはされたんですか。1月17日以前に書類、多分相当な書類らしいです。事前にそれを渡されていたと。今回の一番の大きな問題が書類不備だということがあって、教育長はそれは読み込まれました。本当に正直なところをお願いします。

○教育長（長曾我部 敬一君） 以前にも申し上げましたように、私の机に封筒入りの資料がありました。それが審査会の資料だとは知りませんでしたということと、指定管理者の候補を選考する委員会とは知らな過ぎて、初めてそんな大事な会議であるんだなということで、それ以前に、私の教育長室に茶封筒が置いてあったんです。それは誰がいつ何のために持ってきたのかというのが理解できずに、当日、三好課長さんのほうから選考委員会に行きましょうということで、そこからぱっと目を通してながらそれを確認してということが事実で、そのことは申し上げたつもりでいるんです。

○議員（徳弘 美津子君） 就任されて2か月、3か月か、なのでということとは言えません。きちんと教育長としての責務があるので。副町長は事前に読み込んで、書類が不備だということで付箋をつけていたというぐらいのものなんです。どれぐらいの書類か知りませんが、当日、開けてみてという世界が、教育長としての責務、結局、もともとこの指定管理者は教育委員会のほうで審査した、結局、主導権があるわけです。それに向けて職員なりが動いているわけです、いろいろ。いろいろ動いていたんです。それは、教育長は全く当日しか分からなかったと。それが本当の言葉でよろしいんですね。

○教育長（長曾我部 敬一君） それ、持ってこられたときに持ってきた人が、事前にこういう趣旨でこうなんだよという説明があれば少しは理解できたんですけど、私の机上には決裁事項等々が山ほどあって、いろいろと自分の仕事を、教育長としてのそういう仕事をこなす上で、またそういう小中の統合問題等々のほうで頭がいっぱいで、当日というよりも、書類を決裁した後にはぱっと開——それ、当日と言ったけど、それ、四、五日前、二、三日前か、四、五日前か、「あ、こういうのが来ている」ということで目を通して、それから、私は教育長として採決で行く、採決、行ったときに初めてそこで選考委員だなということで、2つの書類に目を通して、それで急遽いろいろと採点をさせていただいたという、それが現実なんです。教育長としては本当に失格、能力の不足というんでしょうか。はい。

○議員（徳弘 美津子君） 失格なんて思っていないんですよ、全然。本当に今の川南の学校運営は大変だと思っています。不登校の子がたくさんいたりとか、本当に学力とか、学力が低いと

か、学校の先生たちが本当に、本当に私、教育長は大変なところに来たなど。本当にすばらしい経歴をお持ちで、昨日も同僚議員が言われました。外国に赴任するという人は、相当なやっぱり能力がある人ですよということを私も聞きました。それが何ていうかな、こういう翻弄をされて、失格のときにもちゃんと教育長との3人の立会いでとか、ずっと昨日も言われていました。そういう重い責任があるところに、本来ならね、この指定管理者って普通にそんなに住民の方たちが知らない世界なんですよ、どこが指定管理者になるかって。いつも会館が開いて、いつもホールが使えてというのが、当たり前業務が行われている中を、今回、失格という流れがおかしいから新聞沙汰になったわけです。本来なら、教育長が本当に煩わせることでもないと思うんです。だから、失格なんて思っていません、私は。本当に人もいいし、何かすごく、何かある意味、何かすごく——言います。

それで、結局、点数のことです。昨日もちっと同僚議員が言いましたけど、TRCとフロンティアの点数差です。これです。1番の方といたら、もう結局、副町長、昨日の確認ではもうそのように確認できましたので言いますが、1番が副町長、委員長です。2番が教育長ということで、2番の点数がもう開示されているんです。お二人の点数を合わせても、お二人がフロンティアが優れていると、TRCが劣っているとして、2人の合計点数がマイナス46点なんです。大きくここで変わっています。ほかの方々は、5人でTRCがプラス50点なんです。計算して分かりますね。TRCがプラス50点、フロンティアが50点とマイナスの46点の2人の合計差が、したときに4点なんです。明らかに5人の方がプラス50点なのに、お二人がマイナス46点、この点数のつけ方は、教育長は覚えていらっしゃるでしょうか。当時のプロポーザルのときに、どういうことがあってやっぱりその点数——例えば、図書流通センターの1項目からずらっと6点、6点、6点、6点、5点、7点とか、フロンティアネットワーク、8点、8点、7点、8点、8点とか、フロンティアが79点、TRCが58点、差額21点という差をつけていらっしゃる。1番の委員長は、フロンティアが9点、9点、9点、10点の91点で、図書流通センターが7点、7点で66点、25点の差をつけているんです。そこです。今回は、副町長が言われた総合教育会議で点差が4点差だったということも、理由の一つに挙げているんです。そこに教育長もいらっしゃるわけですが、この点数のつけ方は覚えていらっしゃるでしょうか。

○教育長（長曽我部 敬一君） 最後の質問での4点の後、後の質問が理解できなかったんですが、もう一度お願いできますでしょうか。

○議員（徳弘 美津子君） 今のは反問権ですね。いいですか、反問権で。反問権ではなくて、もう一回の質問ということで、時間を止めてほしいです。

点数が違うことですよ、結局。マイナスの21点をつけたということは覚えていらっしゃるかと、プロポーザルで。お答えください。

○教育長（長曽我部 敬一君） その点数については、20分間ずつの説明がありまして、そのときにたくさんの項目の中で、本当に難しい点数のつけ方、それをたくさんの項目の中で、私は終わった後にば一つとつける、どのようにしてつけたのか、まだ記憶にないぐらいにつけたんですね。だから、結構、私はTRCについても悪い点数はつけていないと思うんです。少なくとも7、8、9の点数はつけているつもりでいるんです。だから、両方いい点数をつけた。もう本当にすばらしい説明内容で、甲乙つけ難い内容でのそういう説明でしたので、その後、両方ともよい点

数をつけた記憶はありますが、具体的には覚えておりません。

○議員（徳弘 美津子君） そうしたら、この点数は改ざんですか。7、8、9をつけているのは川南フロンティアです。TRCは、6点、6点、5点、5点、6点、6点、5点、5点、7点、6点、7点。8点はついていません。あら、間違えました、もしかして。大きいことです、これは。責任のことですよ。

なぜ私が言うのかといたら、その総合教育会議で副町長がTRCではないということ言われて、教育長に副町長が意見を求められたんです。「教育長、どうでしたか」と。そうしたら、教育長は、「川添委員の言われたとおり」——川添委員は「すばらしい」と、「両者ともすばらしい」と。ただ、「TRCのほうよかった」と言われたんですね。それを受けて、「川添委員の言われたとおり、二者ともすばらしく、甲乙つけ難くて難しかった」と言われています。教育長は、フロンティアネットワークに、優れていると、21点差をつけているんです。これは何か間違えました。大きいです。今回は、この点数はすごく大きいんです。自分たちの評価をされるわけですよ。私たちが選挙をするのと同じで、自分の今までの5年間のTRCの運営を評価されるわけですよ。評価をされるし、プロポーザルもちろんプレゼンテーションのすばらしさもありますよね。それを本当に真摯にやらないといけないものなんです。だから、選考委員のほかの方たちは、本当に点数もきちんとやっぱりされているけど、あまりにも1番と2番のつけ方が差をつけ過ぎていると思っています。これ以上責めても——ちょっと教育長のお考えをお願いします。先ほどは、TRCのほうがすばらしかったと言っているのに違うと。逆に言えば、これ、間違えたかという世界です。

○教育長（長曾我部 敬一君） 振り返ってみますと、何といいましょうか、私の頭の中が狂っているかも分からない。本当に申し訳ないんですけども、完全に頭が崩壊していたかも分かりません。すいません。

○議員（徳弘 美津子君） 本当に私は教育長をすごくやっぱり評価、評価って失礼ですね。本当にすばらしいと思っているんですね。皆さんもやっぱり言われる。報酬が53万円ほど出ています、きちんと。もらっていないですか。報酬。お給料。そこに、トップ3って誰かお分かりですか。町長、副町長、教育長なんです。本当に多分、どういう経緯の中で副町長が選任されたか分かりませんが、すごくやっぱり重い責任を負って、これからも多分、新年度に向けて先生の確保とかすごく大変だと思うんです。その中で、本来なら、するっとやる指定管理者がこんなにまでもめてすることに非常に、頭が狂っているとかじゃないんです。多分振り回されるんじゃないかなと勝手に思っているんですけど、どうですか。正直なところをお願いします。

○教育長（長曾我部 敬一君） 難しい。私については、すごく判断、理解力不足というのか、あんまり優れた頭脳ではありませんので、今から先、本当にこれで教育長としてやっていけるかどうか、本当に難しい。自信が本当になくなっている状態なんです。だから、どう対処しようかなということを今考えているところなんです。ちょっとごめんなさい。自分自身が考えれば考えるほど分からなくなってきましたので、申し訳ありません。だから——もう結構でございます。

○議員（徳弘 美津子君） 全然責めているわけじゃないですよ、全然ね。だから、逆に言えば、意図的にこういうことをしなさいってもしかして言われました。点数のつけ方。それも覚え

ていらっしやいません。お願いします。

○教育長（長曾我部 敬一君） 特に第三者からは、こうしなさい、ああしなさいって言われることに対して、それは私はもしも言われたとしたら拒否したと思います。だから、そういう上からの圧力みたいなことはありません。それははっきりと言えます。

○議員（徳弘 美津子君） では、先ほどの発言で、私はTRCに8点とかつけたよというのが表れていないのは、もうこれは、自分の中では理解不能ということではよろしいんですか。先ほど、TRCがすばらしくて8点とかつけたんですよと言われていたけど、そこは表れていないんですね。そこについて、そこです、そこを私は御自分の解釈の中で点数をつけているとは到底信じ難いので、確認をしているんです。もうそれが自分では分からないんですよだけで言われるんですか。

○教育長（長曾我部 敬一君） 私の記憶の中ではそうつけたような気がして、今、初めて私の点数を知ることができて、そのような点数をつけたんだということが分かりました。本当は8点くらいつけたような気がしたんです。ぱぱぱっと最後に回収だという、担当者のほうからそう言われて、もう一番最後に総合点というのがあって、そこもどう総合点をつけていいか分からない状態で、そういうふうにつけたような気がしたので、記憶になかったことをつけたようなことということしか記憶に残っていない、はっきり言って。それが現実です。

○議員（徳弘 美津子君） このようなプロポーザルというか、プレゼンテーションのときの点数のつけ方を私は知りませんが、普通は最初にフロンティアネットワークが審査をされたと聞きました。その項目に移ってした。そのときに、その都度、多分点数をつけようと思うんです、自分の中で。普通、10項目ですよ、10項目にわたっていっぺんにばーって世界じゃないですわ。1項目、1項目、フロンティアが1項目についてこういうプレゼンをしたら、これは7点だなとか、そして、2回目のとき、2番手がTRCなので、TRCがしたときに、最初のところの事業者に比べてどうだったかというので点数の差が出てくると思うんです、こういう差のつけ方は。ばーって行って、今、時間がありませんからという世界では私はないんですね、多分。と思うんです。それが本来のちゃんと選定委員会の方たちが責任を持ってやられていることだと思うんです。もういくら言っても仕方ないと思いますが、こういうことをやっぱり副町長に尋ねてもしょうがないかもしれませんが、どうですか、今のこういう教育長のお考えの中で言われていることは、どのようにお考えですか。

○副町長（河野 秀二君） どんな審査をするにも、やはりその時々で考えで整理して点数をつけます。つけると思うんです。ただ、後日、それを見て、ああだったから、こうだったからというのは、そのときの感覚とずれるのは人間多分あると思うんですよ。ですから、その表現の仕方が、今、教育長が悩まれているんじゃないかと思うんですね。1か月前、2か月前に点数つけたのをはつきり覚えている人って、よほどの大きい、金額に例えると例えにならないかもしれませんが、そんなに覚えている人って私はいないんじゃないかと思います。そこで、今、教育長が答弁に苦労されているんじゃないかと思いますが、だから、私のことを言われても、私もどういった点数をつけたかというのは本当にうろ覚えしかありません。そのときの書面を見ながら、見て点数をつけたのはもう間違いなことですけどね。そういうふうに思っております。

以上で終わります。（発言する者あり）

○議長（河野 浩一君） 児玉議員、私語はやめてください。（発言する者あり）

○議員（徳弘 美津子君） それでは、フロンティアネットワークが出された書類の積算根拠が5枚にわたって素晴らしいということでありましたが、フロンティアネットワークの積算根拠は、実績も何もないのになぜ出すことができたのか。その積算の信憑性はどうか。副町長がそれを見て本当にこれはいいと思ったのはなぜなのか。よく言われます。フロンティアネットワークと言われるけど、絵に描いた餅にならないのかという方もいらっしゃいますが、この積算根拠、実績もないところでなぜ出すことができたか教えてください。

○副町長（河野 秀二君） 逆にそれは私が聞きたいです。その会社が、その会社なりに作成されたのだろーと思います。

以上で終わります。

○議員（徳弘 美津子君） 課長に伺います。何か、結局、新たな事業者が新たな事業をするときには、ある程度の積算根拠のお手本がないとなかなかできないと思うんですけど、それらしいものを町がある程度、それは指針の中でお見せするようなことはなかったんですか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

積算根拠になる材料がということなんですけど、今回、募集期間も非常に差し迫っていて時間がないことから、説明会の際に、支出のほうを主にということで、こちらであらかじめ積算書のほうを作成して配布しております。と申しますのが、ゼロから短期間に新しいところが見積りを取って積算をしていくというのは非常に時間的に不利であろうということから、そのように行いました。と申しますのも、やはり受注していたプロポーザル審査というのは、金額で審査をするのではなく、提案の内容で審査をするというような審査の内容になっております。非常に提案が素晴らしいのに、金額のところがあさってを向いているような提案になってしまうと、それもちよっと困ったことだなということで、一応ベースになる部分でいうと業務委託の部分、そういったのを積み上げて、こういうのがモデルになるのではないですかというものはあらかじめ提示させていただいております。

この件に関しましては、基本になりますのが図書館流通センターの実績になりますので、相手方にもお断りした上で、これを応募された方皆様に配ってから、資料にさせていただきますねと断った上で配布のほうをさせていただいております。配布したのは、先ほども申しましたように説明会です。公募が始まって、その後、説明会に必ず来てくださいというふうな御説明をさせていただいております。2者来られたので、2者に同様のものを配布させていただいて、これで提案書の作成をお願いいたしますということで説明をさせていただいております。

以上でございます。

○議員（徳弘 美津子君） ということは、もうTRCは全て手の内を見せていると、それは相手方に渡っているということの認識でいいですか。

○教育課長（三好 益夫君） 今の御質問にお答えいたします。

手の内をというほどではなく、基本的に全体の指定管理料も大分大きな金額になりますので、全体としてこういうイメージになりますよという意味で配布をしております。何もかも出したのかということではなく、あくまでも金額面でこういうモデルになりますよということでお示しをさせていただいております。

以上でございます。

(午前10時02分 終了)